

一丁目通信

2016年10月[0086号]

Arts-eihan

発行: 株式会社アーツエイハン

WEB: <http://eihan.com> Mail: info@eihan.com
〒160-0022

東京都新宿区新宿1-18-13 協建新宿一丁目ビル
電話: 03-3355-1241 FAX: 03-5362-9325

季節は本格的な秋へ突入。
今年も残るところあと3か月、
とにかく熱く駆け抜きたい

代表取締役 飯塚吉純



CEATEC[®] JAPAN 出展 致します

記事: 代表取締役 飯塚吉純

グループ会社で「ワクワクする付加価値の創造」のエイコム(株)は10/4~幕張メッセで開催されるアジア最大のエレクトロニクス展示会「CEATEC JAPAN2016」に出展致します。今回、エイコムで密かに開発していた顔認識システムの「Beesight」を広く披露致します。顔認識機能付きデジタルサイネージ機器、集客や滞留などのマーケティングデータ取得が可能なシステムの展示や、今後主流となる棚前マーケティングや、タクシーサイネージなどのデモンストレーションを行います。今までネットワークを介さないと稼働できなかった「顔認識技術」をエイコムの「Beesight」ではローカル環境でも手軽に活用できるシステムとして新たに開発致しました。シーテックジャパンの展示エリアは「街」小間番号は「2T08」です。招待券を同封致しますので、是非ご来場の程、お願い致します。

場所: 幕張メッセ
日程: 10/4(火)~7(金)
時間: 10:00~17:00
展示エリア「街」
小間番号「2T08」

BeeSight



顔認識システムBeesight
を展示します

赤いブースと看板が
目印です!



招待券(冊子)を
同封しております

富野流仕事術

記事: 映像仕事人 板坂 勇児

富野由悠季さんが主催する勉強会に某ディレクターと参加してきました。初代ガンダムファンとしては久々に胸躍る期待に包まれました。

内容はというと、宮崎駿アニメとの闘いやヒットからの汚名といった興味深い話もありましたが、仕事術から大きく脱線することしばしば。本人いわく、すぐズボラな正確で決めたことをなかなかやらないとのこと。終了後、一番印象に残った言葉に「個性なんて尊重したら仕事は成立しません。個性は癖。その癖が売れたり、万人に受けた時に個性と認めらる。ですから個性を伸ばそうなんて事はそもそも間違いだ」と。目から鱗とはこのことです。

iPhone7、iPhone7 Plus が発売！ イヤホンジャック廃止は受け入れられるのか？

発表前の噂通り iPhone7、7Plus ではイヤホンジャックが廃止され、付属の Lightning 変換ケーブルにイヤホンを接続するか、別売りの無線イヤホンを利用するか選択が迫られる。

iPhone を使っている人の多くが標準のイヤホンを利用しているのを目にする中において、なかなか思い切った選択をしたと思う。よりスマートな商品を提供しようとする Apple らしいが、殆どの人は変換ケーブルで普通のイヤホンを使うのではないだろうか・・・

ただ、今回これまで日本製スマホの優位性であった「FeliCa」や「防水・防塵」機能が搭載され、利便性が大きく向上することは間違いない。前情報通りの発表からの発売にあまり驚きはなかったが、正常進化した iPhone7、7 Plus はバカ売れしそうな気配。Apple の思惑通りにスマートに使えるユーザーがどれくらいいるのか楽しみです。



記事：WEBチーム 鮎川 純一

作ってみたいマイグッズ

イラスト投稿SNSのpixivでは2015年より「pixivFACTORY」というサービスを展開しています。「pixivFACTORY」ではトートやキーホルダー、スマホケースなどのオリジナルのグッズを超簡単に、1個から発注してつくることができます。

私が発注してみたのが「マスキングテープ」。画像を一枚作って、WEB上の編集画面にぽいとドロップするだけで入稿データ完成。支払いを済ませれば、あとは到着を待つだけです。入稿用にレイヤー管理して、最適な形式で保存して、メールでデータを送信して…等は不要。高額な画像編集ソフトや専門的な知識がなくても作ることができます！このサービスに限らず、最近は質の高いグッズを小ロットで、素人も気軽に作れるサービスがたくさんありますね。

現在はアクリル製品がトレンドのようで、アクリルスタンドやアクリルピアスなんていうものもありました。お店で売っているようなしっかりしたものが作れるので面白そう。家族やお友達にも、プレゼントしたら喜ばれそうですね。

記事：WEBチーム 山室 亜耶



▲私の今回準備した画像



▲出来上がりイメージ



▲アクリルピアス：参考品

撮影のこと

記事：映像チーム 佐藤 豊

ここ何年かのカメラのサイズダウンと特機の進化と低価格化によってジブ（いわゆるクレーン）とスライダードリーなどの特殊撮影がとても手軽になった。大掛かりなセッティングと特機が必要だったが、これらの進歩によってこぞって映像関係者が手を出すようになり10年前に比べてずっと手を出しやすくなった。確かに手軽に画がリッチに「見える」。ここで、最近気になっていること。使いすぎじゃね？とってしまう。意味があるドリーショットではなくなんとなく撮ったドリーショット。それが現在ではステディショット・ドローン・ハイスピードなどがそれに当たるかもしれない。必要ときに最適な手法で心をかけていきたい。自戒を込めて。

